

<b>国土交通大臣賞</b> <small>「事業所・地方公共団体等」分野</small>	受賞者名
	<b>株式会社竹中工務店 九州支店 イオンモール熊本増床活性化工事</b>
	取組の実践場所
	<b>熊本県上益城郡嘉島町</b>
	受賞テーマ
	<b>震災復旧工事における産業廃棄物（コンクリート魂・建設汚泥等）の効率的リサイクル活動の推進</b>
<p>2016年4月14日及び16日に熊本で発生した震災では、大量の災害廃棄物が発生し、熊本県下の廃棄物処理会社（収集運搬会社・処分会社）はすぐに処理能力を超えたために大部分の会社では、廃棄物の受入制限をかける事態となった。震災復旧工事は進捗に大きな影響を与えていた。</p> <p>受賞者は、震災当初から福岡県の廃棄物処理会社に協力を要請し、災害廃棄物や産業廃棄物1,200m<sup>3</sup>の県外処理を実施した。また、その後の新增築工事で発生量が多い「コンクリート魂」3,008m<sup>3</sup>と「建設汚泥」1,607m<sup>3</sup>を場内で中間処理を行うことにより、大量の再資源化を短期間で実現した。</p> <p>通常の解体工事では、コンクリート魂を場外処分するが、がれきを取扱う中間処理会社が震災の影響で保管容量を超えたため、受入ができなくなった。県外の処分会社に委託することを検討したが、道路が寸断された上、大量の運搬車両による慢性的な交通渋滞が続くという状況下であり、断念せざるを得なかった。受賞者は、その対応として移動式の許可をもつ破砕機（ガラバゴス）・改良機（リテラ）による「コンクリート魂及び建設汚泥」の場内中間処理を実施した。現場内で再資源化した再生骨材あるいは中間処理土を活用したため、場外処理や材料排出入の運搬車両はゼロとなり、震災直後の道路状況に負荷をかけることなく、また結果として県内の廃棄物処理会社の負担軽減にもつながった。運搬車両については、CO<sub>2</sub>排出削減に寄与することとなった。</p> <p>当該工事で工夫したところは次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・震災直後の廃棄物（混廃・石膏ボード）の発生に対し、福岡県（被災地県外）の廃棄物処理会社が宮崎県の最終処分場への定期便の帰路に熊本県（被災地）に立ち寄り収集運搬し、福岡県での廃棄物処理を委託した。その結果CO<sub>2</sub>排出量を最少限に抑え、環境に配慮した。また、被災地県内の処分会社の負担軽減に寄与した。</li> <li>・コンクリート魂・建設汚泥の自ら利用の再生材はいつまでも「廃棄物」扱いになるのに対し、破砕機・改良機による場内中間処理にて再資源化した建設資材は再生品として使用でき、設計者の要求品質も満たすことができた。</li> </ul> <p>今後、震災に備え、各県の廃棄物処理会社に対し被災地域支援が迅速にできるように協力体制を構築する。大量の廃棄物を処理するために有用な移動式の場内中間処理の許可を取得するよう廃棄物処理会社に要請し、九州各県に展開を予定する。</p>	
	
<p>コンクリート魂と建設汚泥の場内中間処理実施状況</p>	